

2011年度 多胡郡設立1300年記念イベント

平成二十三年九月十日

古代の人々からのメッセージ

ヤマダ電機4階ラビゲート

## 「上野三碑と万葉集」

群馬県立女子大学 北川 和 秀

### ◎上野三碑の本文

#### ①山上碑（六八一年）

・辛巳かのとみの歳集月三日記す。佐野の三家みやけと定め賜ひし健守命たけもりのみことの孫黒売刀自くろめとじ、此れ新川臣あきのの児斯多々しただ弥足尼みのすくねの孫大児臣おほひこに娶ひて生める児、長利僧、母の為に記し定むる文なり。放光寺の僧なり。

#### ②多胡碑（七一年）

・弁官の符に、「上野国片岡郡、緑野郡、甘良郡、并せて三郡の内三百戸を郡と成し、羊に給ひて、多胡郡と成す」とあり。和銅四年三月九日甲寅の宣なり。左中弁正五位下多治比真人、太政官二品穂積親王、左大臣正二位石上尊、右大臣正二位藤原尊なり。

#### \*多胡碑参考

・上野国甘良郡の織裳・韓級・矢田・大家、緑野郡の武美、片岡郡の山等の六郷を割きて、別に多胡郡を置く。  
〈続日本紀和銅四・三・六〉711

・上野国に在る新羅の人子午足等一百九十三人に姓を吉井連と賜ふ。  
〈続日本紀天平神護二・五・八〉766

#### ③金井沢碑（七二六年）

・上野国群馬郡下賛郷高田里みやけの三家の子孫、七世の父母・現在の父母の為に、現在侍る家刀自いくとじ、池田君いけだ目頼刀自めづらとじ、又児加那刀自かんなとじ、孫物部君午足うまたり、次に草刀自ひづめとじ、次に乙草刀自おとひづめとじ、合せて六口、又知識に結べる人、三家毛人みやけのえみし、次に知万呂ちちまる、鍛師かぬちの儀部君いへべのきみ身麻呂むまろ、合せて三口、如是知識に結びて天地に誓み願ひ仕へ奉る石文。神龜三年丙寅二月廿九日

#### \*金井沢碑参考

・上野国甘楽郡かむらの人中衛物部えものべのになふち蛭淵むすぶちら五人に姓を物部公と賜ふ。  
〈続日本紀天平神護元・一一・一〉765

・上野国甘楽郡の人外大初位下げのだいそみのげいそく儀部いへべ牛麻呂うまろら四人に姓を物部公と賜ふ。  
〈続日本紀天平神護二・五・二〇〉766

・上野国緑野郡小野郷戸主物部うののほのむね鳥麻呂とりまろ戸中男作物鹿舩代雑…  
（平城宮木簡）

\* (参考) 郡郷里名二字化に関する史料

① 制すらく。畿内七道諸国郡郷名は、好き字を着けしむ。

(『続日本紀』和銅六年五月二日条)

② 凡そ諸国部内の郡里等の名は、並に二字を用ゐ、必ず嘉き名を取れ。

(『延喜式』民部上)

③ 其の郷の名の字は、神亀三年の民部省の口宣を被りて、改めぬ。

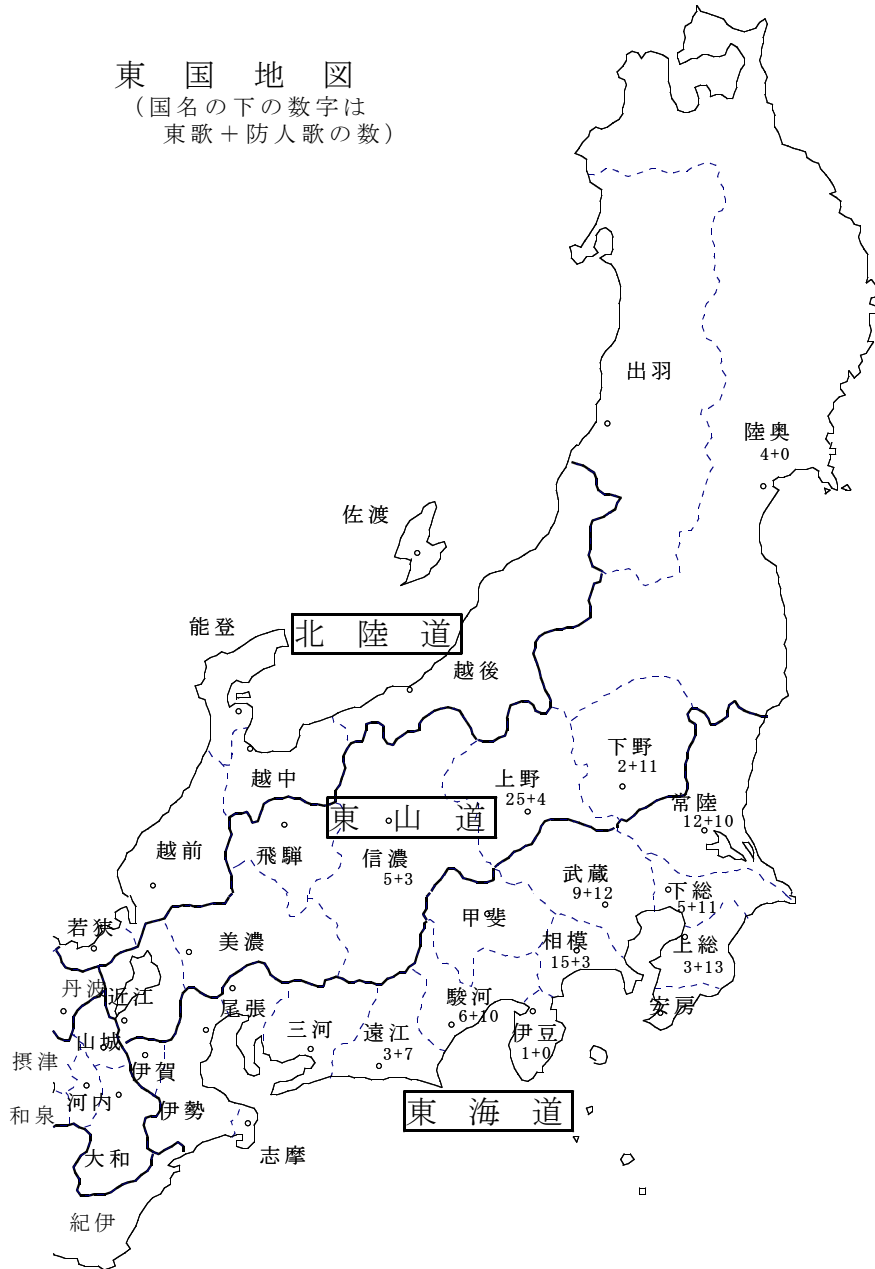
(『出雲国風土記』総記)

・ 揮志の郷 本の字は林なり。(『出雲国風土記』意字郡)

・ 飯石の郷 本の字は伊鼻志なり。(『出雲国風土記』飯石郡) など

|             |   |
|-------------|---|
| 西<br>曆      | 六<br>九<br>七<br>六<br>九<br>八<br>九<br>〇<br>一<br>二<br>三<br>四<br>五<br>六<br>七<br>八<br>九<br>〇<br>一<br>二<br>三<br>四<br>五<br>六<br>七<br>八<br>九<br>〇<br>一<br>二<br>三<br>四<br>五<br>六<br>七<br>八<br>九<br>〇<br>一<br>二<br>三<br>四<br>五<br>六<br>七<br>八<br>九<br>〇<br>一 |
| 年<br>号      | 文<br>武<br>大<br>宝<br>慶<br>雲<br>和<br>銅<br>靈<br>龜<br>養<br>老<br>神<br>龜<br>天<br>平  |
| 干<br>支      | 丁<br>酉<br>戊<br>戌<br>己<br>亥<br>庚<br>子<br>辛<br>丑<br>壬<br>寅<br>癸<br>卯<br>甲<br>辰<br>乙<br>巳<br>丙<br>午<br>丁<br>未<br>戊<br>申<br>己<br>酉<br>庚<br>戌<br>辛<br>亥<br>壬<br>子<br>癸<br>丑  |
| 天<br>皇      | 文武<br>元正<br>元明<br>聖武  |
| 国<br>以<br>下 | 評里<br>郡里<br>郡郷里   |
| 事<br>項      | <p>大宝律令を制定<br/>大宝律令を施行</p> <p>平<br/>城<br/>京<br/>に<br/>遷<br/>都<br/>多胡碑<br/>古事記撰進<br/>風土記撰進の詔(地名を好字(二字)に)</p> <p>郷里制施行か<br/>養老律令成立<br/>日本書紀撰進</p> <p>金井沢碑。民部省の口宣</p> <p>出雲国風土記勘造</p>  |
|             | 長屋王家木簡  |

東国地図  
 (国名の下に数字は  
 東歌+防人歌の数)



◎万葉集卷十四（東歌）の配列

|      |  |    |      |       |
|------|--|----|------|-------|
| 国名判明 | 雑歌<br>5                                | 上総 | 1首   | } 東海道 |
|      |  | 下総 | 1首   |       |
| 国名判明 | 相聞歌<br>7 6                             | 常陸 | 2首   | - 東山道 |
|      |  | 信濃 | 1首   |       |
|      |  | 遠江 | 2首   | } 東海道 |
|      |  | 駿河 | 5首   |       |
|      |  | 伊豆 | 1首   |       |
|      |  | 相模 | 1 2首 |       |
|      |  | 武蔵 | 9首   |       |
|      |  | 上総 | 2首   | } 東山道 |
|      |  | 下総 | 4首   |       |
|      |  | 常陸 | 1 0首 |       |
| 国名判明 | 譬喩歌<br>9 0                             | 信濃 | 4首   | } 東山道 |
|      |  | 上野 | 2 2首 |       |
|      |  | 下野 | 2首   | } 東海道 |
|      |  | 陸奥 | 3首   |       |
| 国名不明 | 雑歌<br>相聞歌<br>防人歌<br>譬喩歌<br>挽歌<br>1 4 0 | 遠江 | 1首   | } 東海道 |
|      |  | 駿河 | 1首   |       |
|      |  | 相模 | 3首   | } 東山道 |
|      |  | 上野 | 3首   |       |
|      |  | 陸奥 | 1首   |       |

合計 230首

◎上野国東歌

①相聞歌

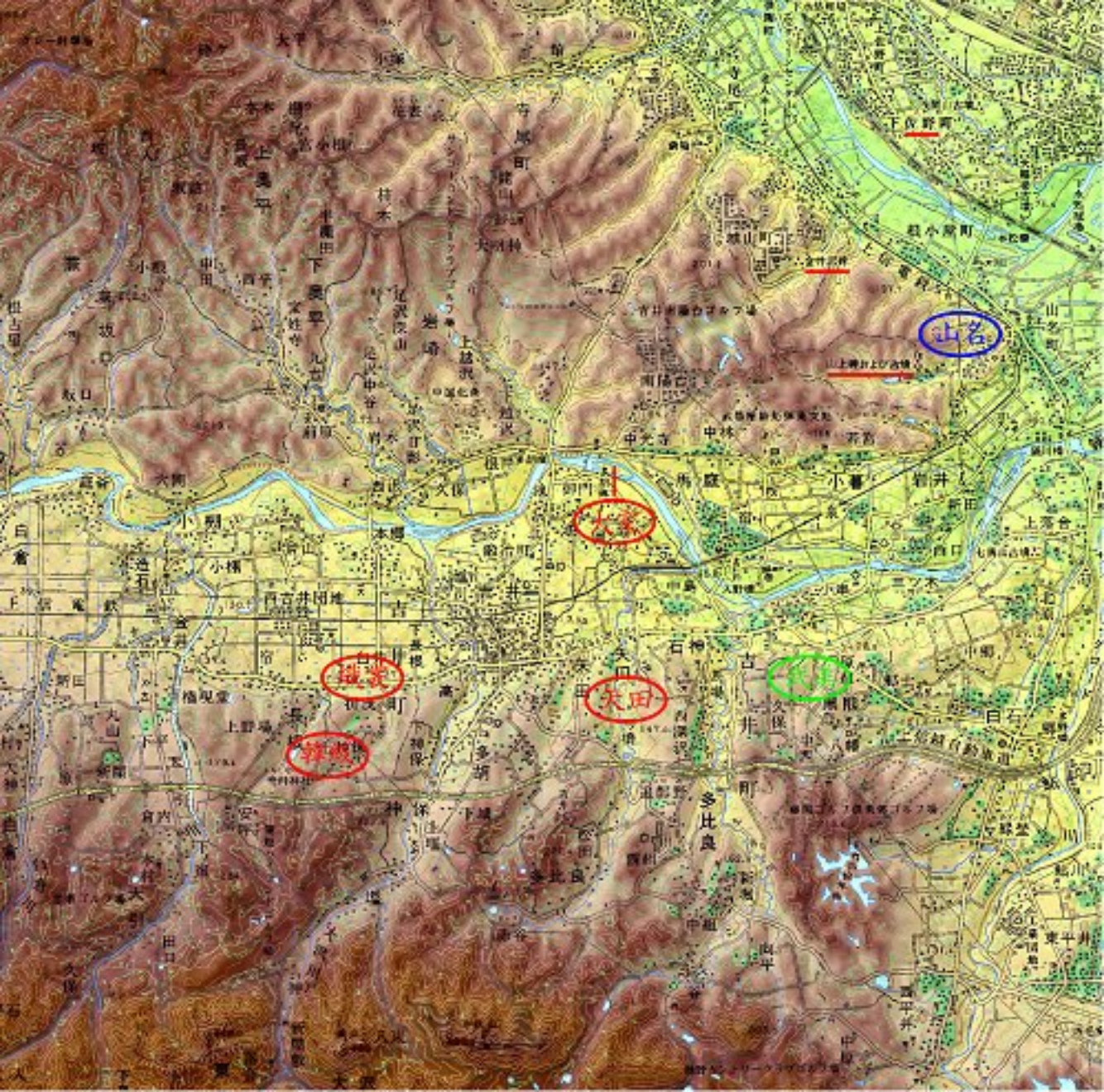
- ・日の暮に碓氷の山を越ゆる日は夫なのが袖もさやに振らしつ（三四〇二）
- ＊吾が恋は現在もかなし草枕多胡の入野の将来もかなしも（三四〇三）
- ・上毛野安蘇の真麻群かき抱き寝れど飽かぬを何どか吾がせむ（三四〇四）
- ・上毛野平度の多杵里が川路にも子らは逢はなも一人のみして（三四〇五）
- ・上毛野小野の多杵里が安波治にも夫なは逢はなも見る人なしに（三四〇五或本歌）
- ＊上毛野佐野の茎立ち折りはやし吾は待たむゑ今年来ずとも（三四〇六）
- ・上毛野真桑島門に朝日さしまぎらはしもなありつつ見れば（三四〇七）
- ・新田山嶺には着かなな吾によそり間なる子らしあやに愛しも（三四〇八）
- ・伊香保ろに天雲い継ぎかぬまづく人とおたはふいぎ寝しめとら（三四〇九）
- ・伊香保ろの岨の榛原ねもころに将来をなかねそ現在し善かば（三四一〇）
- ＊多胡の嶺に寄綱延へて寄すれどもあにくやしづしその顔よきに（三四一一）
- ・上毛野久路保の嶺ろの葛葉がた愛しけ子らにいや離り来も（三四一二）
- ・利根川の川瀬も知らず直渡り波にあふのす逢へる君かも（三四一三）
- ・伊香保ろの八尺の井手に立つ虹の踰るまでもさ寝をさ寝てば（三四一四）
- ・上毛野伊香保の沼に植多小水葱かく恋ひむとや種求めけむ（三四一五）
- ・上毛野可保夜が沼のいはぬ蔓引かばぬれつつ吾をな絶えそね（三四一六）
- ・上毛野伊奈良の沼の大藺草外に見しよは今こそ勝れ（三四一七）
- ＊上毛野佐野田の苗のむら苗に事は定めつ今はいかにせも（三四一八）
- ・伊香保せよ奈可中次下思ひどろ隈こそしつと忘れせなふも（三四一九）
- ＊上毛野佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離るがへ（三四二〇）
- ・伊香保嶺に雷な鳴りそね吾が上には故はなけども子らによりてそ（三四二一）
- ・伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾が恋のみし時なかりけり（三四二二）
- ・上毛野伊香保の嶺ろに降る雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり（三四二三）

②譬喩歌

- ・上毛野阿蘇山葛野を広み延ひにしものをあぜか絶えせむ（三四二四）
- ・伊香保ろの岨の榛原吾が衣に着きよらしもよひたへと思へば（三四三五）
- ・しらとほふ小新田山の守る山の末枯れせな常葉にもがも（三四三六）

③国名不明歌のうち、上野国の歌の可能性あるもの

- ・佐野山に打つや斧音の遠かども寝もとか子ろが面に見えつる（三四七三）
- ・子持山若鷄冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何どか思ふ（三四九四）
- ・伊波保ろの岨の若松限りとや君が来まさぬうらもとなくも（三四九五）
- ・左和多里の手児にい行き逢ひ赤駒が足掻きを速み言問はず来ぬ（三五四〇）
- ・真金吹く丹生の真朱の色に出て言はなくのみそ吾が恋ふらくは（三五六〇）



FIV 野河

山名

大塚

稲葉

神保

矢田

古井